

科目名		応用物理 I (Applied Physics I)							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第3学年	物質工学科	履修	1 単位	—	講義	前期	30 時間		
担 当 教 員		【常勤】 講師 城戸 秀樹							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達目標レベル	物理学の基礎となる力学の重要な概念、法則、現象について、基礎知識を習得し、物理で学んだ現象を、ベクトル、微分積分を用いて記述することができ、論理的思考力を身につけることを目的とする。 到達目標は、以下のとおりである。 ①速度、加速度、力のつり合いを説明できる。 ②各種運動、仕事、エネルギーを説明できる。 ③運動方程式を各種運動に適用できる。								
到達目標 (評価項目)	優れた到達レベルの 目安	良好な到達レベルの 目安		最低限の到達レベルの 目安		未到達レベルの 目安			
到達目標 ①	位置ベクトルを時間で微分し、速度や加速度を求めることができ、力の合成、分解ができる。	位置、速度、加速度の関係を説明でき、力のつり合い、作用・反作用を説明できる。		速度、加速度、力のつり合いを説明できる。		速度、加速度、力のつり合いを説明できない。			
到達目標 ②	力学的エネルギー保存則を説明でき、保存力と位置エネルギーについて説明できる。	二つ以上の運動を説明でき、仕事と運動エネルギー、位置エネルギーの関係を説明できる。		一つの運動、仕事、エネルギーを説明できる。		運動、仕事、エネルギーを説明できない。			
到達目標 ③	微分方程式の形で、運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	二つ以上の運動に、運動方程式を適用できる。		運動方程式を一つの運動に適用できる。		運動方程式を運動に適用できない。			
学習・教育到達目標		(A)		JABEE基準1(2)		—			
達 成 度 評 価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	演習	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		○					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		◎					
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									

関 連 科 目 、 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	物理、基礎数学、代数、解析Ⅰ
教科書	「基礎物理学」原康夫著(学術図書出版社)
補助教材等	プリント(演習問題)
学 習 上 の 留 意 点	
三角関数、ベクトル、微分積分の知識が重要です。 各節ごとに演習問題を実施するので、演習問題を解くことで自身の理解度を把握してください。 数式を丸暗記するのではなく、数式が意味していることを理解してください。 物理量には単位があり、単位系を理解することも大事です。 必ず、予習・復習を行ってください。予習で分からなかったことを中心に、授業中は説明をしっかりと聞き、それでも分からない場合は、友人と相談したり、教員に質問したりして、自分なりに理解してください。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
応用物理Ⅰ、Ⅱで学ぶ「力学」は、自然科学の中で最も基礎的な学問であり、また、工学におけるいろいろな分野の基礎になっている学問です。物理A、Bでは、公式を覚えて問題を解いていたと思いますが、応用物理Ⅰ、Ⅱでは、公式を導き出すところから説明するので、公式を丸暗記するのではなく、導き出し方を理解してください。試験では、記憶力を問うような問題は出しません。皆さんの適応力を問うような問題を出すようにしています。 今後、専門科目も増えていくので、自学自習の習慣を未だ身につけていない方は、早く身につけてください。 分からないところがあったら、いつでも質問してください。一緒に頑張りましょう。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス はじめに	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解し、自学自習に活用できる。 ・座標系、ベクトルとスカラー、単位、微分積分を説明できる。	毎回講義で取り上げた内容について復習する。
2	力	・力、合力、分力を説明でき、図示できる。	予習として、教科書の12～19ページを読んで、概要を把握しておく。
3	力のつり合い	・力のつり合い、垂直抗力、摩擦力を説明でき、力のつり合いの式を立てることができる。	
4	変位、速度、加速度	・変位、速度、加速度、等速直線運動を説明できる。	
5	等加速度直線運動	・等加速度直線運動、自由落下運動、鉛直投げ上げ運動を説明できる。	予習として、教科書の19～30ページを読んで、概要を把握しておく。
6	運動の法則	・慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則を説明できる。	
7	運動方程式	・各種運動の運動方程式を立てることができる。	
8	中間試験		
9	試験返却・解答解説 等速円運動	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の35～39ページを読んで、概要を把握しておく。
10	放物運動	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の46～50ページを読んで、概要を把握しておく。
11	単振動	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の51～55ページを読んで、概要を把握しておく。
12	仕事	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の56～59ページを読んで、概要を把握しておく。
13	運動エネルギーと位置エネルギー	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の59～61ページを読んで、概要を把握しておく。
14	力学的エネルギー保存則	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	予習として、教科書の61～65ページを読んで、概要を把握しておく。
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解し、復習できる。	
総 授 業 時 間 数			30 時間